

人権啓発ビデオ

# 未来への虹

—ぼくのおじさんは、ハンセン病—

文部科学省特別選定



●企画・製作  
法務省人権擁護局  
(財)人権教育啓発推進センター  
●原作  
船橋秀彦／平沢保治  
(「ぼくのおじさんは、ハンセン病」より)  
●監督  
四分一節子  
●監修  
神美知宏／平沢保治  
●制作  
共同映画株式会社／マジックバス

VHS カラー 80分 字幕入 副音声入



# 未来への虹

## —ぼくのおじさんは、ハンセン病—

文部科学省特別選定  
少年向

文部科学省選定  
青年向・成人向

●解説

平成15年11月、熊本県内のホテルでハンセン病療養所入所者らが宿泊を拒否されました。また、この事件を契機として、一般の人からの心ない誹謗と中傷にさらされました。これらの出来事は、ハンセン病に対する理解不足と、ハンセン病患者・元患者に対する偏見や差別が根強く残っていることを明らかにするものでした。

このような偏見や差別をなくすためには、ハンセン病に対する正しい知識を深めるとともに、ハンセン病患者・元患者が国の隔離政策によりどんなに身体的、精神的苦痛を与えられてきたかを広く社会の人たちに認識してもらう必要があります。

この作品は、ハンセン病元患者の平沢保治さんをモデルにして書かれた子ども向けの本「ぼくのおじさんは、ハンセン病—平沢保治物語—」をもとに、小学校高学年以上の方に見てもらうことを目的として作られたものです。平沢さんは、この作品の中で、これからの未来を担う子どもたちに、差別の痛みや苦しみ、帰りたいでも帰れないふるさとへの想い、そして「人権」の大切さを語りかけています。

●あらすじ

茨城県からおじいさんのところに遊びに来ていた正太（小学校6年生）は、いとこの香奈（小学校1年生）と、「国立療養所多磨全生園（たまぜんしょうえん）」に住む平沢保治さんの家へおつかいを頼まれました。はじめて訪れる「全生園」がどのようなところかわからない正太は、平沢さんの容姿に驚き、戸惑いを覚えます。

そんな正太に、平沢さんは語りかけます・・・「ハンセン病」という病気にかかり、14歳の時に茨城県から全生園に入所したこと。園から出ることも許されず、逃げ出したり抗議したりする人たちは監房に入れられることもあったこと。外見が他の人と違うために「差別」を受けてきたことを・・・。

「プロミン」という薬により、病気が完全に治るようになって、国は強制隔離を続け、差別を助長してきたこと。そして、「偏見や差別がある限り、ふるさとは地球で一番遠い場所」なんだということを・・・。

2年後、再び全生園を訪れた正太は、「みんなにもっとハンセン病のことを理解してもらって、おじさんたちが少しでも生まれ故郷に近づけるようにしたい。おじさんのふるさとへの虹のかけ橋をきっと僕たちがかけるから・・・」と決意を語るのでした。

(平成17年度制作)



監修 神 美知宏 (全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長)  
平沢 保治 (多磨全生園入所者自治会会長)  
企画・製作 法務省人権擁護局 (財)人権教育啓発推進センター  
制作 共同映画株式会社 株式会社マジックバス

おことわり◆このビデオプログラムを無断で複製・放送・有線放送・営利目的上映などに使用することは法律で禁じられています。

声の出演

平沢 保治	小山 武宏
細谷 正太	津村 まこと
香奈	小林 沙苗
平沢 範子	久保田 民絵
保治の母	八十川 真由野
少年時代の保治	武田 華
付き添い患者	櫛田 泰道
職員	木下 尚紀

スタッフ

原作  
「ぼくのおじさんは、ハンセン病—平沢保治物語—」  
(全国障害者問題研究会茨城支部・刊)

プロデューサー 船橋 秀彦  
平沢 保治  
藤野戸 護  
出崎 哲

監督 四分一 節子

脚本 小出 一巳  
末永 光代

キャラクターデザイン 四分一 節子  
小林 ゆかり

絵コンテ 四分一 節子

アニメーション演出 榎本 守

作画監督 小林 ゆかり  
山本 径子

美術監督 勝又 激

色彩設計 西川 裕子

撮影監督 岡崎 英夫

音楽 中島 優貴

音響監督 清水 勝則

音響制作 ザック・プロモーション

制作担当 三上 鉄男  
清田 健

エンディングテーマ

「しあわせについて」  
作詩・作曲 さだ まさし  
編曲・演奏・歌 「彩 風」

●この作品についてのお問い合わせ●

〒105-0012  
東京都港区芝大門2-10-12  
秀和第3芝パークビル4F  
(財)人権教育啓発推進センター  
Tel.03-5777-1802(代) Fax.03-5777-1803